



新改訳ニュース

第二号

2023年5月

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 206

一般社団法人 新日本聖書刊行会 発行者・森 恵一

『聖書 新改訳 2017』の今後について 翻訳編集委員長 木内 伸嘉

翻訳編集委員会からの推薦を受け、この4月から津村俊夫先生に代わり新たに委員長に任命されました木内伸嘉と申します。どうぞよろしくお願いたします。

津村先生には、改訂編集作業の委員長として今日まで20年以上にわたり、とりわけ『聖書 新改訳 2017』の刊行のために多大なご尽力をいただきました。そのご労に心から感謝しますとともに、今後も引き続き編集委員会にて先生からご指導を賜りたいと願っています。

新改訳聖書の翻訳は、改訂編集作業を継続していくものであり、何か新しい原則に基づいて新しい翻訳を生み出すものではありません。新改訳の理念は、(1) 聖書を誤りなき神のことばと告白する聖書信仰、(2) 言語的妥当性を尊重すること、(3) 原典に忠実であること、(4) 文学類型を重んじること、(5) その時代の日本語に適切に訳出すること、(6) 聖書研究の進展や日本語の変化に伴う必要な改訂を行うことです（当刊行会ホームページに「翻訳の理念」が示されています。どうぞご参照ください）。私は、これらの理念の実践が、より良い聖書翻訳を生み出すと確信しています。

聖書翻訳の改訂は、日本語の変遷や聖書学の進展を考慮し、30年ごとに行うことが一般的な目安とされています。今後30年の新改訳聖書を考えるとき、何よりも必要なことは、新改訳聖書の翻訳理念と伝統を心から受け入れ、かつ聖書言語への深い関



心と日本語のセンスを兼ね備えた研究者が備えられることではないかと思っています。

30年ごとの改訂は大改訂となりますが、近い将来の課題として、中改訂の可能性がります。『聖書 新改訳 2017』が刊行されてから既に5年以上が経過し、読者の方々から様々な指摘を受け、定期的にかれる編集会議で一つずつ検討してきました。また、毎月、若手研究者たちを含む訳文検討作業部会が開催され、新改訳聖書第1版（1970年発行）以来の諸課題や『聖書 新改訳 2017』で第3版（2003年発行）から変更された箇所の再検討が行われています。編集委員会としては、そのような研究の成果を、そう遠くない将来に中改訂として刊行する予定であります。さらに、簡易注解付きの聖書の刊行も予定しており、現在、準備が進められています。

今後とも、新改訳聖書の改訂作業のためにお祈りくださいますよう、心よりお願い申し上げます。

私は牧師家庭の三男として 1968 年に誕生しました。物心がついた頃、聖書を読み始めた頃、私の教会では文語訳聖書が使われていました。幼い私には、漢字だらけで、言い回しも難しくて到底、読めるような書物ではありませんでした。教会学校の聖句暗唱も苦手でした。牧師の子どもならしっかりと覚えるべきだったのですが、私には難し過ぎて、覚える意欲も出なかったのです。

小学生になる頃に新改訳聖書が教会の集会で使われ始めました。私はようやく自分でも何とか読める聖書を手にしたのです。それでも教会では、文語訳聖書が変わらずに使われていて、早く、自分でも読める聖書が使われるといいなと思っていました。小学校の中学年になる頃、ようやく教会では新改訳聖書の使用を開始しました。旧約聖書、新約聖書を理解できる文章で読めるようになってよかった、という記憶が今も残っています。

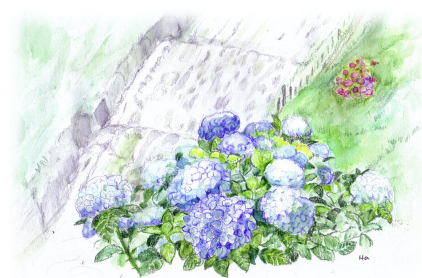
今から振り返ると、私が育ってきたのは、ちょうど教会が文語訳聖書から新改訳聖書の使用へと切り替わる過渡期だったということが理解できます。私より上の世代、特に両親や祖父母の世代は、文語訳聖書に親しみ、すらすらと暗唱していました。格調高い文語訳を理解し、親しむ年齢になる前に、新改訳聖書へと移ったことは、残念な気持ちもありますが（文語訳聖書の良さを理解できるようになったのは、大学を卒業して神学校に入学してからです）、自分は新改訳聖書の第一世代なのだろうと思います。

私が初めて自分の聖書を持つようになったのは、小学校を卒業し、中学校に上がる年でした。1981年、



13歳の誕生日プレゼントで父から贈られたものです。この聖書は今でも大切にっています。最後のページに父の自筆で、サインと文語訳聖書コロサイ1章28節が書かれています。3年前に父が天に帰り、父から贈られたこの新改訳聖書（第二版）は私の宝物となっています（すでに背表紙がはがれ、頁は折れ曲がり、紙も変色して茶色になっています）。

子どもの頃から、私の身近にいた両親、祖父母、教会の人たちがイエスを愛し、聖書のみことば（文語訳でも新改訳でも）を愛し、親しみ、そこに生きようとしていた姿がありました。そのような姿が私自身の人格と人生を形成してきたのだと思います。私が今、願うのは、この聖書を愛し、読み、生きる歴史が脈々と続いていくことです。私自身も先達の模範になりたいと願っています。



新日本聖書刊行会の働きに対するお祈りとご支援に、心からの感謝を申し上げます。

前回に続いて、本頁では『聖書 新改訳 2017』（以下、新改訳聖書）を用いた中期計画について紹介します。今回は、「インターリニア聖書」の刊行計画を紹介しました（まだお読みでない方は、当刊行会のホームページから読むことが可能ですので、是非お読みください）。今回は、関連事項として、コンコーダンスの作成計画を紹介します。

コンコーダンス（聖書語句索引辞典）は、聖書の中の調べたい語の使用頻度や使用箇所、文脈などが参照できる辞典です。この種の辞典は、原典聖書の単語に基づいたものと、翻訳聖書の訳語に基づいたものがあります。それぞれ、紙の本にすると数千ページになりますが、近年では電子化されることで使いやすくなったものもあります。たとえば、当刊行会ホームページの「聖句検索」(<https://www.seisho.or.jp/biblesearch/>)を利用すれば、調べたい日本語の単語が新改訳聖書のどこでどのように使用されているのかを参照することができ、コンコーダンスと同様の参照結果を得ることができます。原典聖書に基づいたコンコーダンスは、旧新約ともに、すでに出版されているものがあります。また、聖書解析ソフト(たとえば Accordance など)やインターネット上で提供されているサービス(たとえば Blue Letter Bible [<https://www.blueletterbible.org/>]など)を使用すれば、原語の単語についての参照結果が得られます。

新日本聖書刊行会が作成しようとしているのは、原典聖書と新改訳聖書を対応させたコンコーダンスです。これにより、原語の単語が新改訳聖書でどう訳されているのかを調べることができます。このコンコーダンスを完成させるためには、約 56 万の語から成っている原典聖書の語の一つひとつを新改訳聖書の一つひとつの訳語と紐付ける必要があります。この作業には多くの時間と労力が必要ですが、完成すれば、より正確で一貫性がある改訂作業をするための有益な資料になります。さらに、このコンコーダンスが完成すれば、辞書の編纂作業に取り組むことが可能になります。

新日本聖書刊行会の願いは、50 年以上にわたり改訂が重ねられ、多くの方々に愛用されている新改訳聖書に基づいた資料が整備されていくことです。新改訳聖書に基づいたインターリニア聖書やコンコーダンスや辞書は、教職者だけでなく、みことばの意味をより深く知りたいと願う方々にとって有益なツールとなるでしょう。また、そのような資料を作成する過程自体が、新改訳聖書を原典により忠実な書として改訂するための重要な取り組みとなります。

今回紹介したコンコーダンスは、インターリニア聖書同様に、5 年後の完成を目指しています。これらの資料が皆様の聖書理解に役立つものとなることを願いつつ、皆様からのご要望に耳を傾け、良いものを完成させるよう努力してまいります。この働きを覚えて祈り、ご支援いただけますようお願い申し上げます。

新改訳聖書の働きを覚えてくださり、ありがとうございます。

2017 版が発行されてから 5 年半が過ぎようとしています。一過性の流行り物とは違い、聖書のように人々の暮らしに根付くものにとっては走り出したばかりとも言えるのですが、世の中の変化は加速度を増しています。聖書の翻訳は、神のことばという変わることのないものであると同時に、それを届ける相手に対応した取り組みでもあります。言語の違いに対応するのが翻訳ですが、同じ言語を使っているようでも社会の観念の変化は人々の受け取り方を異なるものにさせますから、その推移を意識し続けることも欠かせません。

けれど、聖書の翻訳は一朝一夕どころか、本格的な活動を始めてからでも十年単位の取り組みが必要です。それよりも以前に、翻訳作業に役立つデータベースの整備、そして新たな翻訳者たちが育てられていく必要があります。むろん、日本各地各方面において様々な活動が続けられているのですが、新改訳聖書の翻訳編集に携わってきた新日本聖書刊行会としても、この責務を担い続ける決意を抱き、事を進めております。

ですから、ぜひ、聖書翻訳の活動についてご支援ください。

1. 働きの様子をご理解くださり、主の導きと支えをお祈りください。

現在、新日本聖書刊行会が取り組んでいるのは、現行版の改善作業・次世代翻訳者たちの育成事業・データベースの整備などです。本格的な大改訂の時期や、途中での改訂の可能性などはまだ見定められていませんが、ふさわしいものとなるよう、主の導きを求めています。

2. 聖書をご活用ください。

いのちのことば社においては様々な形態の新改訳聖書が発行されています。また、教会やクリスチャンたちの間のみでなく広く社会の中でも用いられることを願っておりますので、聖書を読むことを周囲の方々にお薦めくださると共に、図書館などでも導入されるように働きかけてください。

3. 翻訳者への志を抱く人々を励ましてください。

当方の企画に参加している人々だけでなく、広く、聖書の翻訳に携わろうとする人々が起こされ、整えられていくように、後押ししていただきますように。

新日本聖書刊行会は、聖書発行の印税と共に、皆様からの献金によってその働きは支えられています。ご支援くださる方は、下記の口座までお寄せください。

皆様の祈りの中で、そして言うまでもなく、主のみこころによって、聖書翻訳の取り組みが用いられていくことをと願っております。

...

各種お問い合わせは基本的にホームページの「お問い合わせフォーム」より、聖書の使用許諾については著作権管理事務局へご相談ください。

新日本聖書刊行会

ホームページ <https://www.seisho.or.jp/>

献金振込口座

郵便振替 00190-5-678487

ゆうちょ 〇一八 普通 59182041

著作権管理事務局

ホームページ:

<https://wlpm.or.jp/seisho-copyright>

メールアドレス; shinkaiyaku@wlpm.or.jp